

電子複写不可

0611

昭和二十一年三月

海上挺進基地才二十七大隊空襲戦闘詳報

防衛研修所戦史部



121

4
10

一
二
三
南西空襲報告詳報

昭和二十一年二月二日
海上航空基地第三大隊



1172

中華民國二十七年七月二十日

馬二十一年二月二十日

WDC#
156280

二〇一二二南西空襲戰聞詳報

RS 95398
Cincpac-Cincpoa
B-2 7764
OKINAWA 24 July

23984

海軍基地第二十六大隊

二〇一 二南西空襲 戰闘詳報目次

- 第一 戰闘前ニ於ケル彼我形勢ノ概要
- 第二 戰闘ニ影響ヲ及ニシタル氣象地形及住民地ノ狀態
- 第三 彼我兵士交戦ニ敵團旅將帥氏名編成裝備事情戦法
- 第四 各時期ニ於ケル戰闘經過
- 第五 戰闘後ニ於ケル彼我形勢ノ概要
- 第六 將來ノ參考トナルヘキ事項

附表 第一 戰闘参加人員編成(職名)表

第二 死傷表

第三 鹵獲表

第四 兵器彈藥損耗表

附圖 戰闘經過要圖

二〇一二 南西空襲 戦開詳報
第一 戦開前ニ於ケル 彼方形勢ノ概要

(一) 敵米第三八機動部隊ニシテ、南西諸島地区ニ對スル空襲ヲ企
圖シアリ。尚B29又ハB24一機ヲ以テ南西諸島全般ニ亘リ連日本
襲偵察シアリテ殊ニB24ニ於テハ其ノ行動執拗ニシテ對空火器
ナキ港灣航行ヤ、船舶ニ對シテハ超低空ニテ鐘聲ス
(二) 敵潜水艦ノ出没状況ハ沖繩本島周辺ニ於テ著シ。南西諸島空
襲ノ算愈々顯著ナリ

★ 大隊ノ國上防衛ノシメ十一月六日沖繩本島ニ上陸シ爾後島尻郡與
西原邊岸ニ沿ヒ連日連夜陣地構築作業ニ邁進シアリ
第二 戦開ニ影響ヲ及ボシタル氣象、地形及住民地状態

天候 氣象
一月二二日ハ早朝ヨリ晴天ニシテ視界廣裕ヲナレトモ晝間ニ於ケル

燦々タル陽光、敵機高度ニシテ太陽ヲ背カスル來襲ハ其ノ
見困難ニシテ對空射擊部隊ノ行動亦甚ク制肘ヲ受ク
尚微弱ナル北東ノ恒風アリタルモ敵機ノ飛行ニ支障ヲ來
サス空襲最速ノ氣象ニシテ海上亦平穩ナリ

日出	17:10
日没	17:20
月出	17:40
月没	17:50
風向	北東
平均風速	0.5-1.0米

地形
海上警戒ノ良好ニシテ敵機ノ飛行亦容易ナリ
然共松樹蘇鉄 あり 其他雜木林 点在シアリテ上陸ニ
對スル遮蔽容易ナリタルモ陣地構築初期ニシテ之ヲ掩匿ハ不能

住民地ノ状態

部落ノ集團的ニ多キモ雜木繁茂シアリテ上空ノ遮蔽概ネ可ナ

然レ共木造葺屋根多ク爆彈々燒夷機ニ對スル抵抗カハ皆無ナリ

第三 彼我ノ兵力 交戦セシ敵ノ團隊銃 將帥ノ氏名 編裝裝備

素實戰志
彼我ノ兵力 交戦セシ敵ノ團隊銃

第三十八機動部隊(隊列不詳)

此總本島ニ來襲セル延機數ハ七。機(共)防衛型仕地區ニ
來襲セルモ一三五機ナリ

海上進進基地第三七大隊長 有働少佐外七五六名

將帥ト名 鐵裝備 不詳

戰術指導、概テ確實ニシテ訓練並ニ敢闘精神見ルヘキモアリ

戦法
大編隊ヲ以テ一隊ニ來襲スルコトナク、遠方或ハ高々度ヲ以テ偵察ヲ文分偵察施シタル後、各編隊毎ニ分散進入シ飛行場其ノ他ノ施設ヲ不意急襲ヲ行ヒ制空權ヲ獲得シタル後全面ニ巨烈壓倒的ニ波狀來襲ス
爆撃機施中ト雖モ各編隊交互ニ監視ヲ實施シアルモノ、如ク一任務ヲ終了スルヤ母艦ニ歸艦シ補給ト攻撃ヲ齊整ナラシメ、襲撃時外我カ地上兵器、揚陸機ニ減少スヘク、高々度ヲ飛行セルモノ多シ
急降下爆撃ハ訓練精到ニシテ見ルヘキモアリ

而テ空襲要領ハ波狀的戦法ヲ採リ其來襲狀況左ノ如シ

- 第一波 〇六五〇 一〇〇機
- 第二波 〇八三〇 五〇
- 第三波 一一一〇 一五〇
- 第四波 一三三〇 一一〇
- 第五波 一五三〇 六〇
- 第六波 一四五〇 八〇
- 第七波 一五〇〇 一〇〇
- 第八波 一七〇〇 五〇

第四 各時期ニ於ケル戦闘經過

大隊ハ連日、來襲ニヨリ陸地構築作業ナルモノ一部ヲ以テ戦闘準備對空監視ニ萬全ヲ期シアリ
一月二十二日、敵機ヨリナル編隊ヲ以テ東ヨリ北陸本島ニ侵入シ先全飛行場一部ヲ以テ空襲ヲ行ヒ對シ銃專ヲ開始ス

當時大隊長ハ命令前線附近ニ在リ 本状況ヲ看破スルヤ直ニ各隊ニ
對シ左記ノ如ク命ス

一 各隊ハ即時對空監視ニ就クト共ニ對空對海監視部隊ヲ除キ退
避ノ状態ニナルヘシ

前記命令ニ付テ各隊ハ所定ノ監視部隊 對空射撃部隊ヲ配置シ遊
撃偽裝ヲ徹底的ナラシメテ

ロセロ敵機ノ一部ハ六機編隊ヲ以テ中城灣上空ニ侵入與那原港ニ中心
降下シ環状中ノ山原船ニ對シ銃撃ヲ加ヘリ

ロセロ敵機十機ノ編隊ヲ以テ那覇飛行場ヲ銃撃セルモノノ如クニシ
テ該方向ノ地上火器ノ砲聲益々高ク次第ニ激烈ヲ極メマリ

ロセロ敵機八機編隊ヨリナル敵機ハ我々與那原少隊合上空ニ侵入シ我地上
部隊ニ對シ射撃ヲ開始シ未レハ大田少尉ノ指揮スル重機銃及村瀬少
尉ノ機銃兩對空射撃部隊々々各隊編隊ノ小銃射撃部隊ハ一齊ニ射撃
ヲ開始スルニ至リ

此ノ頃上空ニハ一隊ノ敵機ハ太陽ヲ北西ニシテ巧ニ銃爆撃ヲ行
ヒロハ二六頃 砲午頃上空ト思ハシキ所ニ噴煙上ルヲ遠望ス
ロハロ敵機ヨリ左記電報ヲ受領ス

- 一 ロ六三〇今晨五時警報發令 沖縄本島地區
- 二 第三十二軍司令部
- 三 敵機初部隊近接ニ依ル

大隊長ハ當ニ上空ニ監視スルト共ニ部隊ノ遮蔽偽裝ニ充分ナラシム
ロハ三〇六機編隊ヲ以テ再ヒ中城灣ニ侵入シ大發山原船ニ對シ撤回
シツ、銃撃ヲ加フ 時ニ大發一ハ船衣ニ三発 銃聲ヲ受ク
ロ九〇〇船舶隊司令部ヨリ左記電報ヲ受領ス

- 一 敵機ニ依ル損害ヲ報告スヘシ
- 二 折返シ左記ノ如ク電報ニテ船舶團ニ報告ス
- 三 大隊長命令ハ二〇二〇リ銃撃ヲ受ケタルモ ①人員共異常ナシ
- 四 〇九五〇厘ヨリ左記情報電報ヲ受領ス

空襲状況 六月二十日の一〇時 八時三十分の空襲
直撃空襲 津島本島、全飛行場、一節、港邊市街に攻撃中
現在送別明セル揚子並ニ戦果

輸送船一、機帆船四、各飛行場滑走路被弾
戦死一二名、毒墜三五機

同時刻那覇附近爆音 地上炬音共ニ甚シク熾烈ヲ極メアルモノ也

一〇時 東方及東北方ニ於テ爆音盛ナリ

一〇時 二十数機東北方ヨリ再上未幾奥那覇北ニ二機我部ヲ落ニ

對シ盛ニ急降下銃番ヲ行ヒアリタリシカ一〇五〇分頃該部ヲ落ニ黒煙

黒ト見リ炎ト上ス

一一三〇頃八機南ヨリ侵入シ来リ 我機團銃小隊ハ重ホ弾ヲ浴セ毒

運セシルモノ一五〇分頃四機ヨリ敵機ハ超低空ヲ以テ當奥那覇敵

舎四標ニ銃爆毒ヲ来リ 敵機前ニ四發ノ爆彈ヲ投下ス

當時第一中隊對空射撃部隊トシテ敵機ニ心中彈ヲ浴セマリシ健定雄
池田福一兩上軍兵、直木整一軍兵、三名ハ直撃爆彈ニヨリ頭部ヲ爆一
割、受ケ壯烈ナル戦死、逐々時ニ一五五分ナリ
大隊長ハ即時命令受命者集、左記命令ヲ下達ス
大隊ハ對空部隊及最少人員ヲ残置シ西側山麓ニ退避セントス
各隊、重要書類携行、上爆音ニ注意シシ山麓ニ移動スヘシ
一四〇分頃ヨリ連續的ニ十数回加那覇市ニ對シ爆撃セルモノ、如ク、爆音地上
炬火共熾烈ヲ極メ一五五〇分頃一時静寂トナリタルモ、敵機ハ常ニ高度
七千一、二万米内外ヲ以テ徘徊シマシ

二。一二三南西空襲戦闘経過要圖附圖、也

第五 戦闘後ニ於ケル敵形勢ノ概要

一月二十二日早朝ヨリ約十二時間ニモ、油壺本島、空襲セル敵機部隊ハ、
地上部隊、故關ニ於テ相當ノ打撃ヲ受ケ速クテ運東ノ海田ニ退避セルモノ也

六

大隊ハ一日ニテ百執物ニ未發セル敵機ヲ擊退シテ終ヲ以テ撤收山麓洞窟整理ヲ實施シ主力ハ爆雷燃料ノ積置ニ不眠不休突進セリ

第六 將來參考ナルヘキ事項

(一) 對空監視哨ノ服裝ニ就テ

對空監視哨ノ對空警戒ハ水平線或ハ空際附近ニ其ノ直照ヲ指向スルヲ要ス。今來來襲セル敵機ハ當初超低空ヲ以テ侵入シタルヲ以テナリ。尚彼我飛行機ノ識別ハ更ニ向上スルヲ要ス

(二) 對空射撃ニ就テ

敵機ノ航行速度迅速ニシテ之ヲ擊墜セントモハ横行スル目標ニ對シテハ照準困難ナリ

故ニ對空射撃ハ其ニ向ヒ來襲スルモノニ對シテ遮蔽ヲ適切ナラシメ撃撃區内ニアルモノミテ射撃シ極力強射ヲ節用スルヲ要ス。又ハ九九式重機関銃ニ於テハ高射銃架及高射照進具無キニ付射撃ニ大ナル影響ヲ及セリ今後空襲ニ備ヘ之ヲ設備シ完備ヲ必要トス

(三) 敵機ノ戦法ニ就テ

敵ノ銃爆撃ハ極ノ一執物敵機ノニシテ地上或ハ海上ニ一人ニ馬一舟ヲ發見セシク反復未嘗ス。故ニ對空行動ニ當リテハ偽裝 遮蔽ヲ更ニ徹底シタルヲ要ス。特ニ敵機ノ對空行動ニ於テ然リ

(四) 空襲時ニ於ケル敵機ノ使用セル各種不發彈ノ處理ニ就テ

空襲ニ依ル敵機ノ使用セル各種彈藥物相當ノ不發彈ヲリ之カ處理ニ就テハ一般ニ好奇心ニ捉ハレ取扱ヒシ爲不時事故ヲ發生セル事例地テ人子供ニアリ

故ニ不發彈ヲ發見セハ速ニ井中或ハ海中ニ投入スルヲ要ス

一般住民ニ對スル指導ヲ特ニ必要ナリ

(五) 敵ノ空襲ニ伴行實施サレル偽傳ニ就テ

敵ノ宣傳巧妙ニシテ特ニ無知ナル群衆ハ理ヲ悪化セシムルモノ多シ故ニ此種宣傳物(口)ノ流言横語等ハ政府ノ軍部隊ニ於テ速ニ處理シ民心ノ惡影響ヲ防止スル共ニ是ヲ指導ハ適切ナルヲ要ス

第一勤務中隊		大隊本部				隊名	
第三小隊長	第二小隊長	第一小隊長	指揮班長	由班長	中隊	副官	隊長
同	同	少尉	大尉	大尉	少尉	少尉	少尉
藤岡	川崎	木田	古田	木村	大西	藤田	森田
清	一	信	美	信	三郎	美	佐
3					20		官士下
2					48		兵
2					79		計
							其他

一月三十一日迄之進駐其地第二十六大隊(職)表 附第一三調表

二〇一三二陸西空發隊開隊表 附第一

種別	獲		敵		遺棄死傷	備考
	兵器	兵器	兵器	兵器		
大隊						第一隊
						第二隊
						第三隊
						合計

二月二十二日海軍陸戦隊第三十七大隊敵獲表 附表一第三

二月二十二日南西空襲敵獲詳報

戰國詳報第一卷 號行表 第四

武器彈藥消耗表(甲)

昭和二十年
二月二十二日

備考	計	第一隊		第二隊		第三隊		合計
		彈	榴	彈	榴	彈	榴	
	169	59	110					300
	300	80	90	130				

製表上ノ注意

- 一 此表ハ軍隊區分ニ基ク各部隊毎ニ區分シ且中隊ヲ示スヘシ但シ大隊以下ノモノニ在ラテハ尙區分ヲ詳細ナラシムヘシ
- 二 損失武器中破損ト戦場ニ投棄シタルモノトヲ備考中ニ區分スヘシ
- 三 此表ハ一部ノ戦國局ヲ結フ毎ニ調整シ更ニ合致全部ノモノヲ表ニ調整スルモノトス